

エクストリームシリーズ2013 最終戦 奥大井大会

奥大井大会 優勝チームコメント

イーストウインド 中村 雅美 さん

途中あいにくの雨になってしまいましたが、そんなこともおかまいなしに、脚を攀らせるくらい思い切り追い込んで楽しませていただきました。

スタートはチームチャレンジ。特に道具が用意されていない雰囲気なので何をやるのかいぶかしく思っていたら、意外過ぎる虫捕り！

動きの遅い石や物の下にいる虫を狙っているひっくり返してみただけ何もなくてどうしようと思ったけど、チームメンバーがすぐにバツタを捕ってくれて次のMTBでたちまち先頭に躍り出ることができました。

MTBは急登が多くてとてもきつかったです。担ぎ上げではよるめいてMTBを持ってもらうなど助けてもらい、舗装路ではロープで牽引してもらい、自分の力の無さでメンバーに負荷をかけて申し訳ないと思いつつもどうすることもできませんでした

20分以上かけて着かなければいけないCP4からCP5は、唯一追い込まなくても良い区間だったので気持ちよく下れました。トレッキングでは寸又峡の街を走り抜けましたが、趣のあるお店が多々あってゆっくり歩いてみたかったです。CP7からCP9の登りはまた牽引ロープで引っ張ってもらいましたが、私にはオーバーペースでキツく脚が攣りました。その後何回も攣ってしまいました。

カナディアンカヌーはメンバー二人に漕いでもらい、私はただ座っているだけで楽しさせてもらいました。名前のわからない小さな鳥の群れが可愛らしかったです。

優勝はしましたが、二位のチームとの差はあまり無く、実力のあるチームが揃っていましたね。休む時間も無いパワーコースでへとへとに疲れましたが、寸又峡の街や吊り橋や川など美しい景色も楽しんで充実した一日でした。

奥大井大会 参加チームコメント

イッヒ・フンバルト・ヘーデル 鈴木 文香 さん

私がアドベンチャーレースを知ったのは2年前。初心者向けの大会に出場し、元々アウトドア好きだったこともあり、やんちゃする楽しさにすっかりハマってしまいました。エクストリームシリーズのことはHPで知り、軽い気持ちで年間エントリー。これが因縁の戦いの始まりでした。。

第一戦の那珂川大会では、まず会場でベテラン参加者達の醸し出す雰囲気に思わず気後れ。車のキャリアにMTBを載せ、ピシッとしたカッコいいウェアを着込み、皆さん締まった筋肉。対して我々は、自転車はレンタル。全身某格安洋服店のコーディネーター。ぽよぽよのお腹。会場の空気に飲まれつつ奮闘するも、結果は惨敗。完走ならず。。

第二戦、奥多摩大会では、怪我のために出場できず。他の仲間が臨むも、自転車の故障等も重なり、今回も完全完走ならず。。

第三戦、檜枝岐大会。中盤で道を逆走し、まさかの一時間口ス。完全完走ならず。。

そして今回の奥大井大会。もはや私達の最大の目標となった「完全完走」を懸けた最後の戦いでした。

一緒に臨むのは大学時代からのサークル仲間、ナラさんとシュウ。序盤は良いペース。前を行く人達が何の迷いもなしにMTBを担いで山を登っていく姿に、我々凡人の常識はここでは通用しないのだな...と感じつつ、何とか食らいつきます。

その後のトレッキングでシュウが足をつり、彼の足がみるみる内にボンコツに。「足の付け根から動かせば、まだ走れる！」そう言う彼の言葉は涙を誘いましたが、動きは欽ちゃん走りでした。

そしてMTBセクション。制限時間の17時まで残り1時間。(17時までにはCP13に着かないと完全完走できない)まだいける！諦めちゃダメだ！と奮闘するも、延々と続く登り坂に疲労は限界点へ。感情を滅しペダルを漕ぎ続ける機械と化すことで、何とか乗り切りました。

CP12を通った時点で、残り時間は10分。全力で下り坂を疾走する途中で、ブレーキ操作を誤りまさかの転倒。自転車ごと吹っ飛びました。大丈夫かー！?声を掛けるシュウに、大丈夫！擦り傷だからー！と私。今思うとそんなに大丈夫ではない傷だったのですが、アドレナリンの力、恐るべし。先に行って貰って、外れたチェーンを直して追いかける。残り5分！前で二人が止まっている。道がどっちか分からんとな。私も分からん！残り3分！

その時ナラさんが「左から音がする！こっちだ！」と超人的才能を開花させ、信じて左へ全力疾走。残り1分！進むと前方に人

が見える！CPだ！全力で飛び込み、先頭のシュウが17時2秒前に到着！

スタッフのお姉さんの「ギリギリセーフです！」という声を聞いて、思わず涙が。今までの辛い道中が報われた気がしました。

その後、怪我の処置をして貰い、3人でカヌーに乗って、最後はいつもよりゆっくり、MTBを漕いでゴール。ゴール直前で道を間違え逆側から来たためにゴールテープを切れなかったことも、今では良い思い出です。

初めての完全完走は本当に嬉しくて、あんなに辛かったのに、またレースに出たいと思ってしまいました。奥大井の風景に、最後のCPで迎えてくれたスタッフ方の姿、必死でペダルを漕いだ登り坂、一生忘れないでしょう。

スタッフの皆さま、奥大井の皆さま、素敵な大会をありがとうございました！